

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	独自	職員の大半を長い経験年数や有資格者で占めているが反面、慣れと専門性を混同している現状にあるため、サービス業としての認知症介護の基本とその応用を見失っていると感じることがあり、改めて原点に戻りつつ今後の社会に求められているグループホーム像を見極めながら、質の向上を目指す必要がある。	全職員が認知症介護の基本視点を見失うことなく、個々の持つ能力を活かし、チーム力を強くすることでサービスの質を継続的に向上させ、社会からも評価が得られる事業所となることを目指す。	・センター方式が示す「5つの視点」を意識し、利用者個々への生活支援ができるよう、アセスメント及び支援の実践を日々努め、認知症介護の専門性を高めていく。 ・当該地域の地域包括ケアシステムの確立に努めるため、グループホームに求められていることやできることを見極め、実践していく。	24 か月
2	35	災害対策として、毎月の「防災の日」や年数回の避難訓練等を実施しているがまだ十分とは言えないため、全職員(特に当直者)が有事の際(特に責任者不在時)に初動の適切な判断や行動がとれるよう何度も訓練し、実践力を身につける必要がある。	リスクマネジメントの視点を忘れず、想定できる被害の防止と二次的な被害の防止及びその軽減を図ることを訓練等を重ねることで、複数パターンの対応行動をマニュアル化しつつ実践力を高める。	毎月の「防災の日」の実施内容を現実的なものにし、見えてきた課題を適宜修正していく。また、当日出勤職員の偏りもないように配慮する。	24 か月
3					か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNoを記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。